



第5章 地区ごとの地域福祉活動の推進

本市では、各町内福祉委員会において町内福祉活動計画を策定し、この計画に基づいて小地域福祉活動が推進されてきました。これに合わせて、地区社協は各町内福祉委員会の活動を支援するための推進計画を策定し、小地域福祉活動の促進を図ってきました。

本計画の策定においても、令和6年度から10年度(2024～2028年度)の5年間の活動方針について話し合うため、地区社協の区域と町内会の区域の2つの圏域の会議で構成される地域会議を開催しました。

町内会の区域の会議では、これまでの活動を評価したうえで町内福祉活動計画を策定し、地区社協の区域の会議では、地域の課題から地区社協の推進計画を策定しました。

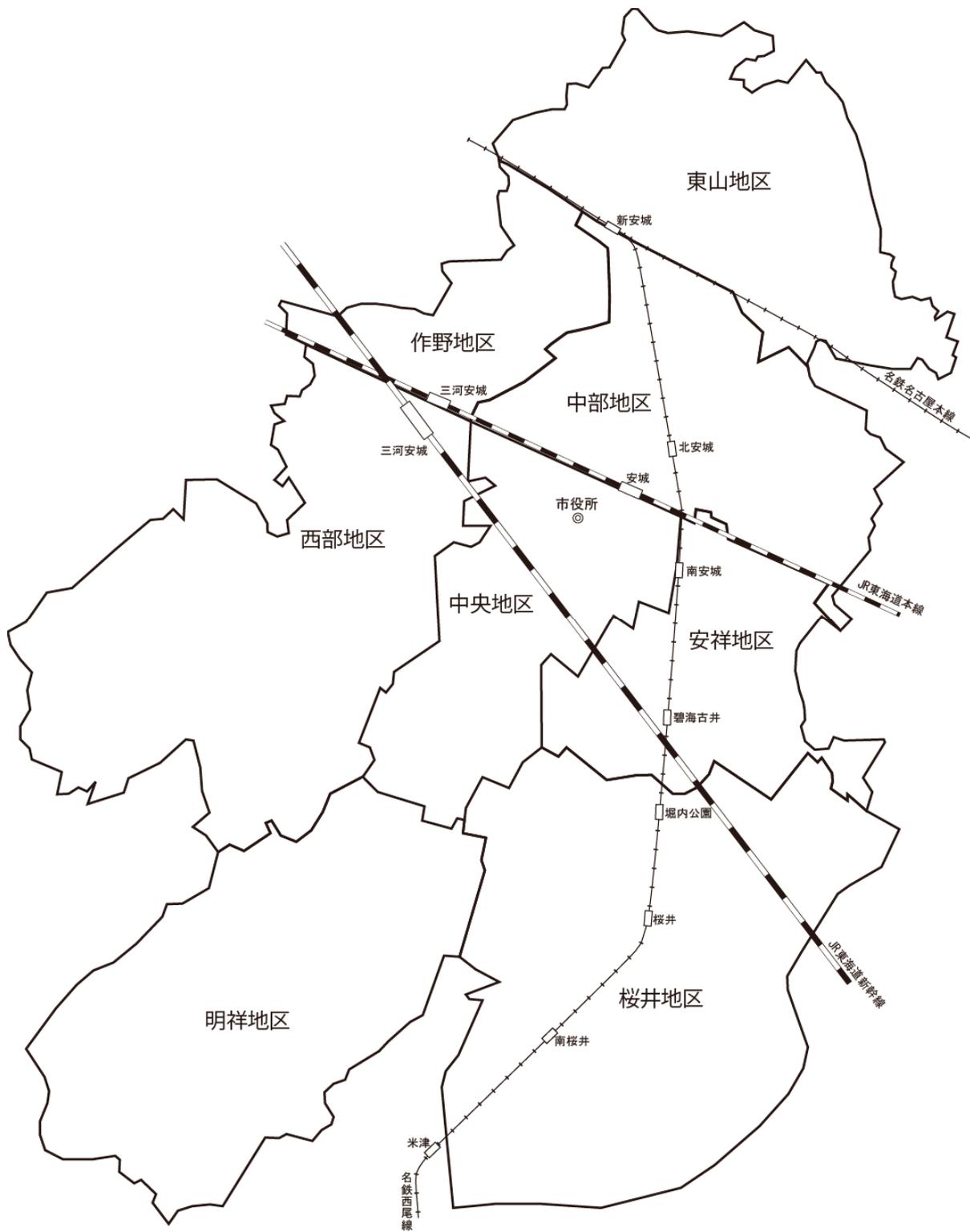
地域会議を通じて出された意見と町内福祉委員会ごとに策定した町内福祉活動計画の内容を踏まえ、地区社協の区域ごとに、地区の概況や町内福祉活動計画の方針、地区社協の福祉活動推進計画を整理しました。

内容は、次のとおりです。

表5-1 本章の構成

1 地区の概況	地区の概況は次の4項目によって構成されています。 (1)地区の位置、地域特性 (2)地区の現状 (3)町内福祉委員会の活動状況 (4)地区の主要課題
2 町内福祉活動計画の方針	各町内での地域会議で出された主な意見と検討結果を踏まえ、町内福祉活動計画の方針としてまとめてあります。 ※「☆:新規」は、今後、新たに取り組む活動方針の他、前計画の時点で策定されていなかったものも含んでいます。 ※「○:継続(充実)」は、前計画から継続するものです。
3 各地区社協の福祉活動推進計画	町内福祉活動計画を実現するために地区社協として支援すべき内容を福祉活動推進計画としてまとめてあります。

図5-1 地区社協の区域





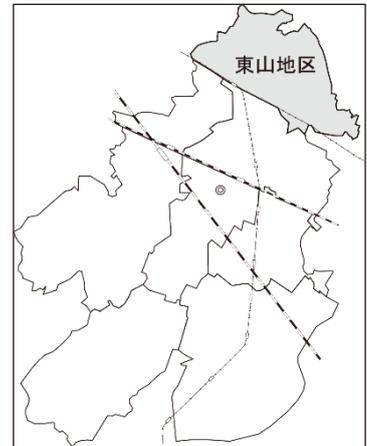
5-1 東山地区

1 地区の概況

(1) 地区の位置、地域特性

市の北部に位置しており、名鉄名古屋本線から北側の豊田市、岡崎市、知立市に隣接する地域で、2町内会で組織する連合町内会と8町内会の計10町内会で構成されています。

名鉄新城駅を中心とした市街地や旧東海道沿いに広がる住宅地、東部の農村地域と大きく分けて3種類の地域によって構成されています。



(2) 地区の現状

駅周辺のマンションやアパートが密集する地域では、町内会加入率が低く、住民同士の地域での関係が希薄化しています。

また、コロナ禍もあり、福祉活動ができず住民同士の交流が難しくなっています。

その他、造成から約60年経った井畑、石橋の両住宅団地では高齢化率が40%に近く、特にひとり暮らし高齢者などに対する地域での見守り活動が必要とされています。



市指定天然記念物の東海道の松並木

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(10)	町内福祉委員会(9)
里、井畑、石橋、橋目、柿碓、尾崎、宇頭茶屋、浜屋、東栄、今本	里町福祉委員会、井畑福祉委員会、石橋福祉委員会、橋目町福祉委員会、柿碓町福祉委員会、尾崎町福祉委員会、宇頭茶屋町福祉委員会、浜屋町福祉委員会、東栄・今本町福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	24,302人
(1)14歳以下人口と割合	3,397人(14.0%)
(2)15歳~64歳人口と割合	16,139人(66.4%)
(3)65歳以上人口と割合	4,766人(19.6%)
2 世帯数	10,312世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者 ※(1)と(2)は重複の場合あり	619人
(1)ひとり暮らし高齢者数	296人
(2)障害者数	216人
(3)その他	114人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	297人

[地域資源]

①保育園(4)、認定こども園(2)、幼稚園(2)
②児童センター(1)、児童クラブ(9)
③小学校(3)、中学校(1)
④公民館(1)
⑤福祉センター(1)
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(14)
⑧障害福祉サービス事業所(6)
⑨医療機関(医科 7、歯科 7)
⑩サロン(29)、生活支援・見守り協力店(153)
⑪老人クラブ(14)、子ども会(14)

(令和5年10月1日現在)

(3) 町内福祉委員会の活動状況

各町内福祉委員会では、健康体操や健康講話といった高齢者の健康維持のための活動をはじめとして、住民の交流を目的としたサロンや昼食会などが行われ、多くの住民が参加しています。

また、高齢化の進む町内では、見守り活動だけでなく、生活支援についても取組が進められており、併せて対象者の実態把握や支援者の選定が行われています。



東栄・今本町福祉委員会「サロンすずめ」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 継続的な見守り体制づくり

- ① ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯に加え、障害のある人や社会的弱者など支援が必要な人も増えているため、見守り対象を広くした活動が求められています。
- ② 見守り活動等を通じて把握した情報を民生委員、老人クラブや評議員等の活動者同士で定期的に共有し、必要な支援方法等の検討が必要です。

主要課題2 活動の担い手の不足

- ① 地域住民の高齢化により支援が必要な人が増加し、福祉活動の必要性が高まっている一方で、活動者の高齢化や新たな人材がおらず特定の担い手への負担が増しているため、活動の継続が難しくなっています。
- ② 委員が毎年交代する町内福祉委員会も多く、活動が継続しにくい状況です。
- ③ 見守り活動等を継続的に行っていくために、組長や評議員等の町内役員も加えた見守り方法を検討するとともに、ボランティアや近隣住民などの協力者の発掘・育成が必要です。

主要課題3 誰もが参加しやすい交流事業の開催

- ① サロンには高齢者の参加が多いが、その他の世代の参加が少なく住民同士のつながりが希薄化しています。
- ② 子育て世代や若年世代が地域での関わりが深まるような取組が必要です。
- ③ 障害のある人や社会的弱者等と地域との顔の見える関係づくりが必要です。



2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
里町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍により「里みまもりたい」の活動ができなかった。 ②サロンには高齢者の参加が多く、その他の世代の参加が少ない。 ③子育て世代同士の交流の場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り活動「里みまもりたい」の活動の再開。 ○サロン活動のさらなる充実。 ☆子育て世代向けのサロンの開催。
井畑福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①ひとり暮らし高齢者以外の情報の把握ができていない。 ②若い世代とのつながりが難しい。 ③災害時に誰がどのように対応するのかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日中独居の方を対象者として見守り活動を拡大。 ○認知症の方へのサポートの実施。 ○子どもにもサロンに参加してもらい多世代の交流を図る。 ☆防災ボランティアによる支援体制の構築。
石橋福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①活動を支える町内役員やボランティアの負担が大きい。 ②どの事業や活動においても参加者が固定化している。 ③避難行動要支援者の支援を含め、災害発生時の対策が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆住民の協力による負担なく効率的な見守り活動の実施。 ☆ささえ愛隊活動の実施。 ☆世代や属性に限らず町内住民の誰もが集える場づくりと新たなアイデア企画の実施。 ○防災組織のあり方の検討。
橋目町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①若い世代との交流が少ない。 ②誰もが参加しやすい町内行事にしていきたい。 ③いざというときに役立つ防災訓練にしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆子どもと住民の交流の場の検討。 ○誰もが参加しやすい行事にするため他町の情報収集。 ○実践的な災害対策。

☆:新規 ○:継続(充実)



里町福祉委員会「東山サロン」



井畑福祉委員会「ハートフルケアセミナー」



石橋福祉委員会「喫茶ひだまり」



橋目町福祉委員会「町内会議」

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
柿碓町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①見守り情報を共有する手段が確立できていない。 ②子ども会未加入者が増え、各事業の存続や伝統の継承等が難しくなる。 ③災害時に実際に動けるように防災訓練を実施するべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉委員会にて見守り活動状況の定期的報告と共有。 ☆子ども会役員の負担軽減と新規加入者を増やすための取組の検討。 ○防災訓練を含め各行事への要支援者の参加促進。
尾崎町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①ひとり暮らし高齢者以外の見守りができていない。 ②高齢者等の状況変化や支援のニーズがつかみにくい。 ③若い世代との交流がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難行動要支援者を対象として、見守りの体制を整える。 ☆様々な行事を活用して参加者に聞き取りを行い、必要なニーズを把握して支援につなげる。 ○福祉活動推進のための人材育成と発掘。
宇頭茶屋町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①民生委員だけでなく組長等からも情報を得る仕組みが必要である。 ②高齢者しかサロンに参加しておらず、若い世代との交流がない。 ③防災訓練に避難行動要支援者の参加がほとんどない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守り会議や福祉勉強会の開催。 ☆サロンでの定期的な体力測定実施による介護予防の強化と子どもも楽しめる企画の実施。 ☆避難行動要支援者を含め、あらゆる世代の防災訓練への参加促進。
浜屋町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①サロンや行事の参加者が固定しており新たな参加者がいない。 ②認知症についての理解が進んでいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○様々な町民が参加しやすい、魅力あるサロンの開催。 ☆見守り活動者に対する認知症サポーター養成講座の実施。
東栄・今本町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①各団体や役職(評議員、民生委員、老人クラブ、町内会等)の活動内容が共有できていない。 ②サロン等の行事への参加者が固定化している。 ③見守り活動を含め地域のボランティア活動の担い手が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆小単位での福祉委員会の定例開催にて見守り活動状況の情報共有。 ☆新規参加者が増えるような企画の検討及び周知方法の工夫。 ○住民自ら取り組む防犯、防災活動の推進及び住民の意識向上。 ○隣近所での見守り活動の推進。

☆:新規 ○:継続(充実)



柿碓町福祉委員会「柿の里・きっ茶ルーム」



尾崎町福祉委員会「健康体操サロン」



宇頭茶屋町福祉委員会「宇頭茶屋サロン」



浜屋町福祉委員会「浜屋サロン」



3 東山地区社協の福祉活動推進計画

東山地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	世代間交流や仲間づくりを促進し、地域における助け合いを支援します。	(1)各町内の状況に応じた提案活動の実施	①情報提供や活動の提案 各町内福祉委員会の活動がより充実するよう、その町内に合った活動方法やサロン内容、生活支援活動や多世代交流の先進事例などを提案します。 ②見守り活動推進のための提案 対象者の状況把握をはじめ、日常生活の中で無理なく取り組める見守りや支援の方法を提案します。
		(2)活動資金の助成と活用の提案	各町内の福祉活動が充実するよう、市社協一般会費への協力を啓発するとともに、町内福祉委員会に対して活動資金の助成や活用できる助成金の提案も行います。
		(3)町内福祉委員会と関係機関との連携支援	町内福祉委員会が専門機関や民間企業等と連携・協働できる活動の提案や支援をします。
2	住民の誰もが住み慣れた地域でいつまでも暮らせるよう、安全・安心のまちづくりを推進します。	(1)住民で解決が難しい課題を把握したときに対応できる体制づくり	住民で解決が難しい課題を把握したときは、生活支援・見守り協力店や地域包括支援センター等、様々な関係者が連携を深めて解決につながるよう住民を支援するとともに、その仕組みづくりを行います。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	①広報(地区社協広報紙の発行等) 地区社協広報紙の発行など、広報活動を通じて、地域福祉推進のための啓発を行います。 ②勉強会や講演会の開催 地域福祉活動の充実のための勉強会や講演会の開催をします。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の発掘と育成	地域の関係機関との連携、福祉センター事業や地区社協事業等を通じて若い世代を含めた地域福祉活動の担い手となる人材の発掘を行います。



ぼらんていあり
「ほほえみ会」



東山・中部・作野地区社協共催事業
「親と子どもの居場所づくり」



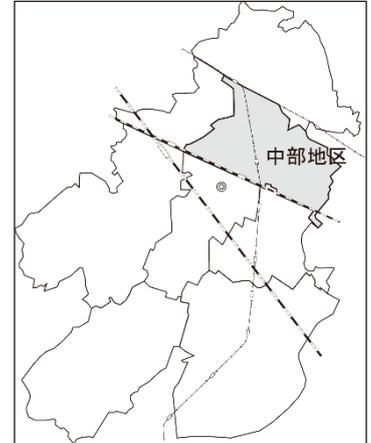
東山地区社協広報紙
「東山地区社協だより」

5-2 中部地区

1 地区の概況

(1)地区の位置、地域特性

南側のJR東海道本線、北側の名鉄名古屋本線に挟まれた、市の中央から東側の地域で、15町内会で構成されています。地区の東部は田畑の広がる農村地域ですが、JR安城駅及び名鉄新安城駅周辺は、交通の便がよく、高層マンションが立ち並び住宅地として都市化が進んでいます。また、市内で市営住宅が最も多い地区です。



(2)地区の現状

マンションやアパートが多い都市化した地域では、町内会加入率が低く、住民同士のつながりが薄くなる傾向があります。町内会や子ども会に加入する世帯が減少するなど、住民同士の関係の希薄化や町内活動への無関心化は、どの町内でも共通した課題になりつつあります。

地区全体で高齢化が進んでいますが、特に農村地域では高齢化率が市内で上位となっている町もあります。



高層マンションのある
JR安城駅前

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(15)	町内福祉委員会(15)
今池、コープ野村新安城、池浦、新田、西別所、東別所、別郷、別所団地、北山崎、高木、大岡、山崎、明治本町、昭和、大東	今池町福祉委員会、コープ野村新安城福祉委員会、池浦町福祉委員会、新田連合福祉委員会、西別所町福祉委員会、東別所町福祉委員会、別郷町福祉委員会、別所団地町内会福祉委員会、北山崎町福祉委員会、高木町福祉委員会、大岡町福祉委員会、山崎町福祉委員会、明治本町福祉委員会、昭和町福祉委員会、大東町福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	27,998人
(1)14歳以下人口と割合	3,604人(12.9%)
(2)15歳～64歳人口と割合	17,572人(62.8%)
(3)65歳以上人口と割合	6,822人(24.3%)
2 世帯数	12,092世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者 ※(1)と(2)は重複の場合あり	1,181人
(1)ひとり暮らし高齢者数	598人
(2)障害者数	363人
(3)その他	240人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	564人

[地域資源]

①保育園(5)、認定こども園(4)
②児童センター(1)、児童クラブ(11)、あんぱ〜く(1)
③小学校(4)、中学校(1)、高等学校(2)、専門学校(1)
④公民館(2)、青少年の家(1)、市民交流センター(1)
⑤福祉センター(1)
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(24)
⑧障害福祉サービス事業所(18)
⑨医療機関(医科 18、歯科 11)
⑩サロン(39)、生活支援・見守り協力店(76)
⑪老人クラブ(17)、子ども会(19)

(令和5年10月1日現在)



(3) 町内福祉委員会の活動状況

各町内福祉委員会では、サロンなどのふれあい交流活動が活発に行われています。

見守り活動については、日頃の声かけなどの見守りに加え、福祉委員会での情報共有やサロン活動を通じた安否確認などを行っています。また、避難行動要支援者支援制度や福祉マップを活用し、高齢者等の要支援者を見守る体制づくりが行われています。

高齢者世帯等の生活支援を行う仕組みがある町内福祉委員会もあり、お互いに助け合う気持ちを持ちながら活動を続けています。



西別所町福祉委員会「見守り訪問」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 持続的な見守り体制の構築、関係機関との連携

- ① 見守り活動において、民生委員が主体となっている地域が多く、民生委員に大きく負担がかかっています。住民を巻き込んだ見守り体制の構築が必要となっています。
- ② 子ども・障害・高齢・生活困窮といった多様化、複雑化された問題を解決することが難しくなっています。
- ③ 様々な問題が勃発する中で、関係機関との連携の方法を明確にする必要があり、迅速に対応できる関係づくりが求められています。

主要課題2 多世代間の交流と福祉意識の醸成

- ① 各町内福祉委員会において、高齢者向けの事業は行われてきましたが、働き盛りの住民や若い世代を対象とした事業や、福祉の学習会などの機会は少なく、多世代の福祉意識の醸成が必要となっています。
- ② コロナ禍の影響もあり、地域全体の世代間交流が減少しています。
- ③ 子どもたちに地域を支える担い手として活躍してもらえるよう、地域住民や地域の福祉サービス事業所と小中学校、高校が連携する必要があります。

主要課題3 活動の担い手の不足と高齢化、次世代の活動者の発掘

- ① サロンなどのふれあい交流活動は活発に行われていますが、活動の担い手が高齢化し、特定の人や特定の世代に大きく負担がかかっています。
- ② 委員が毎年交代する町内福祉委員会も多くあり、活動の継続が難しい状況です。
- ③ 若い世代の担い手の発掘が難しい状況であり、新たに担い手となってもらうよう、町内福祉委員会活動について住民に周知するなど、啓発活動の方法を検討しなければならない状況です。

2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
今池町福祉委員会	①地域住民を巻き込んだ見守り活動が必要である。 ②要支援者の実態に応じた支援について町内福祉委員会の役割の明確化が必要である。 ③活動のマンネリ化防止及び新規参加者増のための工夫が必要である。	☆町内会組織 <small>くみろしき</small> を活用した情報収集及び見守り活動の実施。 ☆個人情報の取扱い及び支援内容に応じた公的機関との役割分担の明確化。 ○魅力ある活動を実施するために体験的活動の組入。
コープ野村新安城福祉委員会	①集いの場や情報提供の場、各種相談対応など、コミュニティセンターロビーと空き家になった管理人室の有効利用を考える必要がある。 ②住民の福祉意識を醸成していくため、福祉委員会活動を周知する必要がある。	○コミュニティセンターロビーと元管理人室を子どもや高齢者の居場所としての活用を検討。福祉情報の提供、住民の意見や困りごとを把握し、支援する方法の模索。 ○広報のチームの立ち上げ、定期的な福祉委員会だよりの発行や掲示板での活動周知。
池浦町福祉委員会	①見守りを必要としている方の把握や、見守り方法の再検討の必要がある。 ②誰もが気軽に集まれる居場所づくりや催しの検討の必要がある。 ③各種団体と連携した活動や情報共有も引き続き行う必要がある。	○支援を必要としている方の情報把握をするための、町内会等の情報の共有。 ○健康の維持向上を図るとともに、ふれあいの場など外出増の機会づくり。 ○各種団体との連携による情報共有、見守り活動の充実。
新田連合福祉委員会	①見守りをする中で、ひとりで対応するのが難しいケースがある。 ②サロンへ来て欲しい方への声かけが必要である。 ③各種団体との連携による行事の継続と周知方法の検討が必要である。	○見守り活動者がひとりで対応が難しい場合、町内会との連携で対応。 ☆全世代に向けての様々な教室の開催を検討。 ☆学生ボランティアに情報が届く方法を検討。
西別所町福祉委員会	①自然と全世代が集いたくなる居場所づくりを行いたい。 ②子育て支援が必要である。 ③支援する側、される側ではなく、相互理解が進むようにしたい。	○多世代が参加する町内イベントやサロンの実施と広報の充実。 ○子ども会との連携、困りごとの発掘。 ○町内の福祉施設との連携協力。

☆:新規 ○:継続(充実)



今池町福祉委員会
「健康体操教室」



コープ野村新安城福祉委員会
「おしゃべり会」



池浦町福祉委員会
「ふれあい集会」



町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
東別所町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①サロンや町内のイベントに参加する人が固定化している。 ②犯罪の方法も多様化しているため、幅広い層の地域住民に最新の防犯の知識を習得してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○サロンの内容や開催頻度の検討、新規サロンの立ち上げの検討。 ○避難行動要支援者の避難訓練の再開。 ☆避難行動要支援者、支援者、高齢者、子どもなど、幅広い住民を対象とした防犯教室の実施。
別郷町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①対象を高齢者に限らず、見守り活動や交流会を定期的で開催したい。 ②世代間交流の催しを開催することにより、人材発掘に努めたい。 ③生きがいづくりや困りごとを相談しやすい環境づくりを行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難行動要支援者への各行事のPRなど住民が参加しやすい工夫。 ☆高齢者教室や若い世代向けの介護保険関係の教室開催。 ○地域の子どもが安心して登下校できる活動の維持。
別所団地町内会福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①サロン参加者が固定化している。 ②ボランティア会員が高齢化し、特定の会員に負担がかかっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○定期的サロンの安定した開催。 ○困りごとや助け合いに必要な情報の把握と支援。 ☆若い世代との協議や連携、また福祉サービスや制度の教室開催。
北山崎町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①避難行動要支援者支援制度を活用していきたい。 ②参加者減により廃止となった町内健康体操教室に代わる事業が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○避難行動要支援者と支援者の交流会の開催。 ○避難行動要支援者支援制度を活用した機能的な防災訓練の充実。 ○幅広い世代を巻き込んだ、介護予防事業の推進。
高木町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①サロン参加者が固定化し、新たな参加者が少ない。 ②高齢者教室だけではなく、若い世代への福祉関係の教室の開催が必要である。 ③各種団体と連携した行事の開催を検討したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆若い世代の住民に、高齢福祉サービス制度を知ってもらえる機会を検討し、教室等を開催。 ○サロン活動を継続させつつ、参加者の増加方法の検討。 ○各種団体との連携による情報共有、行事の充実。

☆:新規 ○:継続(充実)



東別所町福祉委員会
「支援者会議」



別郷町福祉委員会
「ワイガヤサロン」



北山崎町福祉委員会
「サロン活動」

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
大岡町福祉委員会	①サロン参加者や地域福祉活動の担い手が高齢化している。 ②世代を超えた多くの住民がふれあう機会をつくりたい。	○前期高齢者向けの勉強会を企画し実施。 ○親子でサロンに参加してもらえる機会の創出。
山崎町福祉委員会	①民生委員や住民の見守り情報を共有する機会が不足している。 ②町民が福祉の困りごとを気楽に相談できる体制がない。 ③フレイル対策の活動の充実を図りたい。	☆「見守りサークル」を立ち上げ、定期的な情報共有会を実施。見守り対象者家族、関係機関との連携。 ☆福祉相談員を配置し、各種福祉サービスの紹介、口利きの実施。 ○身体フレイル、社会的フレイル予防のセミナーの開催。
明治本町福祉委員会	①世代間交流の新たなイベントの創設を検討する必要がある。 ②要支援者・地域支援者交流会の開催を今後も継続していきたい。 ③担い手が高齢化している。	○世代間での顔の見える関係づくりの継続、定期的イベントの開催。 ○サロンに若い子育て世代にも来てもらえるよう声かけの継続実施。 ○ボランティアが活動しやすいような環境づくりと人材の発掘・育成。
昭和町福祉委員会	①要支援者・地域支援者交流会の開催を今後も継続していきたい。 ②ボランティアが高齢化している。 ③サロンや町内行事に参加する人が固定化している。	○専門機関と連携した見守り活動。 ○ボランティアが活動しやすいような環境づくりと人材の発掘・育成。 ○世代間での顔の見える関係づくりの継続、定期的イベントの開催。
大東町福祉委員会	①町内にある福祉事業所施設との交流の復活を検討したい。 ②ボランティアが高齢化しているので、新たな人材発掘の必要がある。 ③高齢者が集える場づくりを継続して行う必要がある。	○福祉事業所との連携継続。 ○ボランティアが活動しやすいような環境づくりと人材の発掘・育成。 ☆世代間交流を含めたイベントの内容の検討。

☆:新規 ○:継続(充実)



大岡町福祉委員会
「ハートフルケアセミナー
(高齢者のための健康管理)」



山崎町福祉委員会
「ここにこサロン」



北明治福祉委員会
(明治本町・昭和町・大東町)
「要支援者・地域支援者交流会」



3 中部地区社協の福祉活動推進計画

中部地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	町内の特色を活かした地域福祉活動の支援を行います。	(1)各町内の状況に応じた提案活動の実施	①情報提供や活動の提案 各町内福祉委員会の活動がより充実するよう、他地域の情報を提供するとともに、町内に合った活動方法や取組内容などを提案します。 ②見守り活動推進のための提案 町内の状況に合わせた見守り方法や支援体制づくりを提案します。 ③学習会の開催支援 各町内福祉委員会で開催する勉強会やイベントについて、講師情報の提供や開催方法を提案します。
		(2)活動資金の助成	各町内の福祉活動が充実するよう、市社協一般会費への協力を含め、町内福祉委員会やボランティア団体に対して活動資金の助成を行うとともに、活用できる助成金等の情報を提案します。
		(3)町内と関係機関との関係づくり	町内と関係機関、福祉施設、民間企業等が連携、協働できるよう活動の提案、支援を行います。
2	誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進するための環境づくりを行います。	(1)住民だけでは解決が難しい課題に対応できる体制づくり	市や地域包括支援センターなどの関係機関との連携を強化し、住民だけでは解決が難しい課題が発生したときに、住民と関係機関、生活支援・見守り協力店等が協働で課題に取り組む体制づくりを進めます。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	①広報(地区社協広報紙の発行等) 各町内が取り組む地域福祉活動の紹介や福祉の情報を発信することを通じて、地域福祉活動の啓発を行います。 ②講演会や学習会の開催 地域福祉や防災、防犯、認知症、介護予防など多様なテーマで、地区の課題に応じた講演会や学習会を開催し、地域福祉活動の啓発を行います。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の発掘と育成	中部福祉センターや地区内の公民館、各種団体などと連携しながら、地区社協事業を通じて地域福祉活動の担い手となる人材の発掘や育成を行います。

5-3 作野地区

1 地区の概況

(1)地区の位置、地域特性

市の北西に位置しており、刈谷市と知立市に隣接し、1連合町内会と4町内会で構成されています。

井杭山町と二本木地区は旧依佐美村から分離して安城市に編入され、住吉町は今村地区から区画整理によって誕生するなど、それぞれ異なる由来を持つ地域で構成されています。

名鉄やJRの駅近くにあり、交通の便が良いため、住宅地が多く、JR三河安城駅周辺には、高層マンションが建ち並んでいます。



(2)地区の現状

町内会、町内福祉委員会の他に、自助グループ等が集いの場を作るなどして、住民交流の場が多く存在しています。また、複数の町内会協力のもと運営されているお祭りなどもあり、地区内の町内会間交流も活発です。マンションやアパートが多い都市化した地域では、町内会加入率が低く、住民同士のつながりが薄くなる傾向があります。町内会や子ども会に加入する一方で、外国人住民、夜勤労働者、単身者など多様な住民が混在し、住民の入れ替わりが多いため、問題を抱えている住民の把握がしにくいという課題があります。このような人々と地域との関わりが希薄にならないように、地域住民同士の顔の見える関係づくりと、見守り体制の強化を目指す必要があります。

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(7)	町内福祉委員会(5)
住吉、篠目、井杭山、美園、二本木新町、三河安城、依佐美・美園住宅	住吉町福祉委員会、篠目福祉委員会、井杭山町福祉委員会、二本木連合福祉委員会(作野地区)、依佐美・美園住宅福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	24,316人
(1)14歳以下人口と割合	3,325人(13.6%)
(2)15歳～64歳人口と割合	16,477人(67.8%)
(3)65歳以上人口と割合	4,514人(18.6%)
2 世帯数	10,616 世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者 ※(1)と(2)は重複の場合あり	682人
(1)ひとり暮らし高齢者数	324人
(2)障害者数	232人
(3)その他	138人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	337人

[地域資源]

①保育園(4)、認定こども園(2)
②児童センター(1)、児童クラブ(5)
③小学校(2)、中学校(1)
④公民館(1)
⑤福祉センター(1)
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(26)
⑧障害福祉サービス事業所(14)
⑨医療機関(医科17、歯科11)
⑩サロン(28)、生活支援・見守り協力店(46)
⑪老人クラブ(5)、子ども会(9)

(令和5年10月1日現在)



(3) 町内福祉委員会の活動状況

新型コロナウイルス感染拡大で対面での交流が抑制される中でも工夫して活動を続け、高齢者の通い・交流の場などを継続させてきました。現在では、地域住民の憩いの場として喜ばれています。

近年は介護予防にも力を入れ、定期的に勉強会や専門職による講習会を開催し、住民に対し、福祉や健康などについて啓発活動を行っています。また、主に未就学児とその親世代を対象としたサロンの開催や、子ども会活動への協力など、子どもや子育て世帯への支援を図るとともに、世代間交流にもつなげようとしています。



井杭山町福祉委員会
「ぬくぬくカフェ」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 住民同士の顔の見える関係づくりと世代間交流が図れる活動

- ① サロン等において、既存の参加者同士の関係が強くなり、新しい方が参加しにくい環境が生まれています。新しい方が参加しやすい環境をつくり、誰もが楽しめる居場所づくりに努めることが必要です。
- ② 避難行動要支援者支援制度を地域で推進するため、日頃から住民同士が交流し、要支援者と支援者が顔の見える関係を構築する必要があります。
- ③ 多世代が参加する子どもの居場所づくりや子育て世代向けのサロンの開催など、子どもや子育て世帯への支援の充実が必要です。



依佐美・美園住宅福祉委員会
「にここサークル」

主要課題2 地域住民への健康や福祉の啓発

- ① 専門職の協力を得て、高齢者がいつまでも元気でいられるよう、介護予防やフレイル予防の啓発や運動機会の創出が必要です。
- ② 定期的に福祉課題についての勉強会や、専門職を招いて講習会を開催する等、課題に対し福祉啓発活動を行い、地域福祉への当事者意識を高める必要があります。

主要課題3 見守り活動の充実と課題発掘の強化

- ① 見守り活動を積極的に展開するために、専門職の協力を得て、町内福祉委員会の委員をはじめ、住民の理解をより深めることが必要です。
- ② 困りごとを抱える人を発見し、問題の解決に向け、支え合う仕組みを作ることで誰もが地域で生活できる支援が必要です。
- ③ 町内会未加入者など、情報の把握が困難な人を発見し、必要に応じて専門機関と共有し、見守り活動など必要な支援につなげることが重要です。

2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
住吉町福祉委員会	①夏休みの子どもの居場所づくりや子育て世帯への支援ができると良い。 ②元気な高齢者が増えると良い。 ③特に町内会未加入者への見守りが不十分である。	○子育て世代への支援や子どもを対象とした行事の充実。 ○介護予防への取組。 ☆見守り会議の定期的な開催と、見守り活動の充実。
篠目福祉委員会	①子どもや子育て世代への支援がもっとできたら良い。 ②外部団体と協働で、福祉委員会の活動がもっと活発になると良い。 ③災害に備えるために、充実した防災訓練を行いたい。	○既存のサロンや事業の充実。子ども会行事への協力。多世代交流のできる行事の開催。 ☆ボランティア団体や企業などと行事を企画・開催。 ○住民の防災意識を高めるための訓練と防災マップの修正。
井杭山町福祉委員会	①子ども会が解散し、子どもや子育て世代への支援が不十分である。 ②新しい市営住宅での見守りを継続して行うことが必要である。 ③住民に福祉や健康について啓発できると良い。	○子どもや子育て世帯が参加しやすい行事の実施。 ☆市営住宅自治会と連携し、市営住宅での新たな見守り体制を構築。 ○機会を捉え、住民に対し、講座や勉強会を開催し、啓発を行う。
二本木連合福祉委員会 (作野地区)	①地域支援者が登録されていない要支援者が多い。 ②行事やサロンに参加しない人と関わる機会がない。 ③継続的・効果的な防災訓練ができていない。	○見守りマップの見直しと地域支援者の登録推進。 ☆「困ったとき安心ファイル」を作成し、個別訪問などを行う。 ☆継続的に防災活動に関わる人材の育成と組織づくり。
依佐美・美園住宅福祉委員会	①住民の出入りが激しく、どんな住民がいるのかよく把握できていない。 ②既存のサロンを充実させ、もっと周知したい。 ③外国籍の方にも行事に参加して欲しい。	○住民情報を集め、整理し、ニーズを把握。 ☆サロン活動者の意見交換・交流の機会の創設。 ☆外国人向けにサロンや行事を多言語で周知。

☆:新規 ○:継続(充実)



住吉町福祉委員会
「フレイル予防講座」



篠目福祉委員会
「おやかカフェ」



二本木連合福祉委員会
「ふれあいウォーキング」



3 作野地区社協の福祉活動推進計画

作野地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	安心して暮らせる福祉のまちづくりを推進する支援を行います。	(1)各町内の状況に応じた活動への助言	①情報提供や活動の提案 先進的な他地域の情報を提供したり、視察・交流会をとおして、より充実した福祉活動のための提案を行います。 ②充実した活動推進のための提案 町内会未加入者や外国人など情報の把握が困難な人への支援事例を基に協働して見守り活動を推進します。
		(2)活動資金の助成	効果的な福祉活動が行えるように、各町内福祉委員会に対して活動資金の助成を行います。
		(3)地域資源の発掘と協働できる体制づくり	商店やボランティア団体、企業などの様々な地域資源を発掘し、協働して福祉活動が行えるよう支援します。
2	福祉のまちが発展し、福祉活動が継続できるよう環境づくりを行います。	(1)住民で解決が難しい課題が発生したときに対応できる体制づくり	地域課題を見つけることができるよう、地域住民の方々との交流の機会を多く持ちます。課題を共有したうえで、住民の方や関係機関と協働し、課題解決ができるような体制をつくります。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	①広報(地区社協広報紙の発行等) 地区社協だよりや事業を通じて、各町内が取り組む地域福祉活動への理解が得られるよう広報し、啓発を行います。 ②勉強会や講演会の開催 地域福祉活動の輪が広がるような講演会・勉強会を開催します。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の発掘	事業の開催や啓発活動などを通じて、地域福祉活動の担い手となる人材の発掘を行い、育成をします。



作野地区社協「福祉講演会」



作野福祉センター・作野地区社協共催「おそと de 体操」



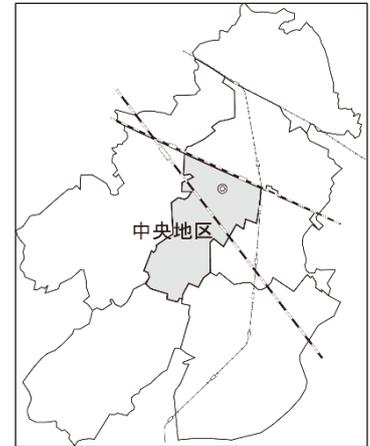
作野地区社協広報紙「あったか地域さくの」

5-4 中央地区

1 地区の概況

(1) 地区の位置、地域特性

中央地区は、市のほぼ中央に位置し、15町内会で構成されています。JR安城駅、名鉄南安城駅、市役所、アンフォーレなどがあり、JR安城駅前の中心市街地と商店街を取り囲むように立地する住宅地、一部の農村地域で構成されています。



(2) 地区の現状

駅前商店街は、失われた賑わいや店主の高齢化などの問題の解決と新たな活力を発揮するため3つの商店街が合併し、つながる商店街として誕生しました。

大型プロジェクトの区画整理が進み、所属町内会の変更もありましたが、新しいまちでのつながりが少しずつ構築されています。

また、多くの町内では、安否確認訓練や防災訓練を行うなど、災害時要支援者への対応が行われています。



安城七夕まつりのアンフォーレの風景

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(15)	町内福祉委員会(15)
栄町、御幸、本町、本通り、朝日町、相生、末広、花ノ木、日の出、南町、百石、城南、大山、横山、赤松	栄町福祉委員会、御幸福祉委員会、本町福祉委員会、本通り福祉委員会、朝日町福祉委員会、相生町福祉委員会、末広町福祉委員会、花ノ木福祉委員会、日の出福祉委員会、南町福祉委員会、百石町福祉委員会、城南町福祉委員会、大山町福祉委員会、横山町福祉委員会、赤松町福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	30,442人
(1)14歳以下人口と割合	3,915人(12.9%)
(2)15歳～64歳人口と割合	20,247人(66.5%)
(3)65歳以上人口と割合	6,280人(20.6%)
2 世帯数	13,379世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者 ※(1)と(2)は重複の場合あり	960人
(1)ひとり暮らし高齢者数	439人
(2)障害者数	376人
(3)その他	161人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	424人

[地域資源]

①保育園(3)、認定こども園(3)、幼稚園(1)
②児童センター(1)、児童クラブ(6)
③小学校(2)、中学校(1)、高校(2)、専門学校(3)、 専修学校(1)
④文化センター(1)、市民会館(1)、公民館(1)
⑤福祉センター(1)、社会福祉会館(1)、アンフォーレ(1)
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(31)
⑧障害福祉サービス事業所(42)
⑨医療機関(医科 28、歯科 22)、保健センター(1)
⑩サロン(32)、生活支援・見守り協力店(68)
⑪老人クラブ(13)、子ども会(13)

(令和5年10月1日現在)



(3) 町内福祉委員会の活動状況

各町内福祉委員会では、見守り活動とふれあい交流活動、勉強会、高齢者への生活支援などが主に行われています。

見守り活動では、避難行動要支援者支援制度や福祉マップを活用した、地域での高齢者等の要支援者を見守る体制づくりと活動が行われています。

ふれあい交流活動として、すべての町内福祉委員会で多世代交流イベントや高齢者の居場所づくりとしてサロンなどが開催されています。

勉強会は、サロンや福祉委員会などで、福祉や防災、認知症、介護予防などのテーマを中心に開催され、要支援者と支援者の両者への見守りの啓発、支援者の発掘、育成が行われています。

高齢者のゴミ出しなど、生活支援を行う町内福祉委員会も数多く見られます。また、その他にも個別に生活支援の対応をしているところもあります。



中央地区社協「第2回地域会議」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 活動の担い手の負担集中と次世代の活動者の発掘・育成

- ① 活動者の高齢化が進んでいる中、活動の継続が難しくなっていますが、新しい人員が見つからず、特定の担い手への負担が大きい傾向があります。
- ② 活動を継続・維持するために、多世代交流事業などを通じて、若い世代の活動者の発掘・育成が急務となっています。

主要課題2 サロン活動などの交流活動の参加者の固定化

- ① 各町内でふれあい交流を目的にサロンを開催していますが、男性の参加者が少なく、また、新規の参加者は伸び悩み、参加者は固定化しています。
- ② 地域から孤立しがちで、サロン活動に参加していただくと良いと思われる方の参加は少ない傾向です。

主要課題3 地域の防災への意識の高いまちづくり

- ① 住民の防災に対する意識差があり、また防災訓練時の参加者は少ない傾向にあるため、様々な世代への啓発の必要があります。
- ② 避難行動要支援者支援制度の効果的運用ができておらず、災害弱者に対する発災時のきめ細かい支援体制ができていない状況です。

2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
栄町福祉委員会	①サロン参加者の固定化が気になる。 ②防災訓練時にそれぞれの意識付けが必要である。	○小規模町内会を活かして顔のみえる関係づくりを行い、サロンへの声かけを実施。 ○防災訓練時、防災グッズの配布など、意識付け・啓発の実施。
御幸福祉委員会	①ニーズ把握を行い、困りごとを抱えている家族への支援を行う。 ②新しい生活支援の形を考えていきたい。	○訪問のチャンスを活かし、ニーズ把握を行うとともに、家族が遠方の方への支援体制づくりの検討。 ○新事務所を活かしたサロン活動等の実施。買い物ツアー等の実施検討。
本町福祉委員会	①拠点がなく、活動を行っていくうえで難しいことが多い。 ②セキュリティがしっかりしているマンションでは訪問が難しい。	○サロン活動や見守り活動などを工夫しながら実施。 ○要支援者が一目でわかるよう、マップの更新継続。
本通り福祉委員会	①サロン活動での新しい参加者を増やしたい。多世代の方が興味を持てる会を開催したい。 ②災害時の対応を考えていきたい。	☆多世代の方が興味を持てる会の開催。ティータイムや子ども食堂などの開催。 ☆防災に関する意識を高める環境づくり。
朝日町福祉委員会	①福祉マップを作成したが、十分な見直しができている。 ②町内会に加入していない要支援者の状況が把握できない。	○困りごとを抱えた住民(引きこもり、ヤングケアラー等)の支援の検討。 ○自然とお互いを見守る体制づくりの検討。

☆:新規 ○:継続(充実)



栄町福祉委員会「ふれあいサロン」



御幸福祉委員会「ふれあいサロン」



本町福祉委員会「ラジオ体操」



本通り福祉委員会「ふれあいサロン」



朝日町福祉委員会「健康麻雀サロン」



町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
相生町福祉委員会	①コロナ禍で行事の参加者が減少、また参加者が固定化している。 ②活動者の入れ替わりがあり、マンパワー不足、若い世代の活動者が少ない。	○要支援者の町内行事への参加を促すため、お誘い活動を実施。 ○新たな人材の発掘、育成を目指し、組織体制を強化するため検討。
末広町福祉委員会	①障害のある人、子ども等への支援が十分ではない。 ②認知症、障害などがあっても、住みやすいまちであって欲しい。	○地域の障害のある人、子ども等へのあいさつ運動の推進。 ○合理的配慮が自然とできるような仕掛けづくりを検討。
花ノ木福祉委員会	①区画整理での避難行動要支援者とのつながりの見直しが必要である。 ②多くの目、世代間での見守りが必要である。みんなが気軽に集える花ノ木にしていきたい。	○支援者の状況を確認し、必要に応じて新たに近隣住民に支援を依頼。マップの更新継続。 ○子どもも意識したサロン日の変更を行い、世代間交流の促進。
日の出福祉委員会	①サロンを通じて、地域とのつながりの重要性を知ってもらいたい。 ②子育て世代と協力して世代間交流をしていきたい。	○日の出町の歴史の継承をサロン会を通じて行うとともに、多世代間交流の実施。 ○子育て世代と福祉委員会の共催事業の実施。
南町福祉委員会	①子育て世代を活性化し、町内の活性化にもつなげていきたい。 ②困りごとを積極的に受けとれるような、見守り活動を行っていきたい。	☆子育て世代の住民も参加しやすい環境づくりをし、顔のみえる関係づくり。 ○訪問カードなどを利用し、困りごとの相談を受けとめる制度の充実。

☆:新規 ○:継続(充実)



相生町福祉委員会「お茶のみサロン」



末広町福祉委員会「ふれあいサロン」



花ノ木福祉委員会「ふれあいサロン」



日の出福祉委員会
「ふれあいサロン」



南町福祉委員会
「ハートフルケアセミナー」

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
百石町福祉委員会	①老人クラブや町内会の加入者が減少し、役員の担い手がいない。 ②町内会、老人クラブ、福祉委員会の活動内容の共有が不十分である。	○運営者の負担軽減と子どもや若い世代が参加しやすい行事の検討。 ○老人クラブ、町内会、福祉委員会のつながりを深め、見守りを強化。
城南町福祉委員会	①見守りが必要な人の掘り起こしが十分にできていない。 ②災害時における要支援者への支援の検討が十分ではない。	☆組ごと班ごとマップづくりを通じて、ご近所での助け合いの強化。 ☆専門職と連携し、個別避難計画が発災時に機能するよう検討。
大山町福祉委員会	①担い手不足である中で、地域で行うことを考えていく。 ②サロン活動がコロナ禍より復活するものの参加者が減ってきている。	○世代間交流を図るとともに、地域の中でできることの実施。 ○いろいろな世帯の町民が参加しやすく、魅力あるサロンを開催する。毎週型サロンの継続。
横山町福祉委員会	①各活動スタッフの高齢化が進んでいるが、新しい人員が入ってこない。 ②災害時に対応できるようにしたい。	○人材の発掘と育成。 ○町内の部会同士の連携、他町内会や施設・機関(市・小学校・社協等)との連携を検討。
赤松町福祉委員会	①次世代への働きかけ不足で、活動者及び役員のなり手がいない。 ②通いの場が町内の様々な場所にあると良い。	○多世代交流事業を通じて、新たな人材発掘と育成。 ○通いの場での見守りを充実させるため、ワンコイン食堂を実施。

☆:新規 ○:継続(充実)



百石町福祉委員会
「一人暮らし高齢者交流会」



城南町福祉委員会
「防災食づくりサロン」



大山町福祉委員会
「ふれあいサロン」



横山町福祉委員会
「おこしものづくり」



赤松町福祉委員会
「ふれあいサロン」



3 中央地区社協の福祉活動推進計画

中央地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	住民に寄り添う福祉活動の展開を支援します。	(1)各町内の状況に応じた提案活動の実施	①情報提供や活動の提案 ふれあい交流活動、サロン活動の方法や講師、内容などを提案します。生活支援の活動について提案します。 また、各町内福祉委員会の活動状況に応じて地域資源や他地域の情報を提供します。 ②見守り活動推進のための提案 町内の状況に合わせた見守り方法や、日常生活の中で無理なく取り組める見守り方法、関係機関との連携方法を提案します。 ③様々な活動と連携した福祉活動の提案 防災活動や防犯活動、環境美化活動など、様々な活動と連携した福祉活動を提案します。
		(2)活動資金の助成	町内の福祉活動が充実するよう、市社協一般会費への協力を含め、各町内福祉委員会に対して活動資金の助成を行います。
		(3)住民に相談してもらえる関係づくり	町内福祉活動が個別の困りごとにより充実した対応ができるよう支援します。
2	町内の福祉活動の課題を様々な組織、機関が連携し、対応できる環境づくりを行います。	(1)住民だけでは解決が難しい課題に対応できる体制づくり	市や地域包括支援センターなどの関係機関と連携し、町内での解決が難しい課題に町内と連携して対応できる体制をつくります。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	①広報(地区社協広報紙の発行等) 地区社協広報紙の発行など、広報活動を通じて、各町内が取り組む地域福祉活動への理解が得られるよう啓発を行います。 ②勉強会や講演会の開催 地域福祉の充実のため、福祉や防災、認知症、介護予防などをテーマに勉強会や講演会を開催します。 ③多様な地域資源との連携 生活支援・見守り協力店や学校などと連携することで、福祉活動の啓発を行います。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の発掘	総合福祉センターやボランティアなどと連携して地域福祉活動の担い手となる人材や地域資源の発掘を行います。

5-5 安祥地区

1 地区の概況

(1)地区の位置、地域特性

「安城」という名称の由来といわれる地域であり、市の東部に位置し、9町内会で構成されています。

古くからの農村地域と、名鉄西尾線沿線の住宅地や公営住宅があり、特に公営住宅では高齢者や外国人住民が増えているなど、従来からの住民と転入者が混在する地域となっています。



(2)地区の現状

従来からの住民が多い地域では3世代同居も多く、住民同士のつながりも保たれています。しかし、地区全体では高齢者世帯やひとり暮らし高齢者、日中独居など支援の必要な世帯も増えています。また、公営住宅では単身者、高齢者、外国人住民が増えたことなどにより、地域活動への理解や協力を得ることが難しくなりつつあります。



市指定遺跡である安祥城址

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(9)	町内福祉委員会(9)
上条、土器田、西尾、秋葉、東尾、河野、古井、古井新町、古井住宅	上条町福祉委員会、土器田福祉委員会、西尾福祉委員会、秋葉福祉委員会、東尾福祉委員会、河野町福祉委員会、古井町福祉委員会、古井新町福祉委員会、古井住宅福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	19,476人
(1)14歳以下人口と割合	2,473人(12.7%)
(2)15歳～64歳人口と割合	12,398人(63.7%)
(3)65歳以上人口と割合	4,605人(23.6%)
2 世帯数	8,316世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者 ※(1)と(2)は重複の場合あり	834人
(1)ひとり暮らし高齢者数	425人
(2)障害者数	285人
(3)その他	143人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	415人

[地域資源]

①保育園(2)、幼稚園(1)
②児童センター(1)、児童クラブ(5)
③小学校(2)、中学校(1)
④公民館(1)
⑤福祉センター(1)
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(29)
⑧障害福祉サービス事業所(11)
⑨医療機関(医科 5、歯科 9)
⑩サロン(34)、生活支援・見守り協力店(43)
⑪老人クラブ(8)、子ども会(8)

(令和5年10月1日現在)



(3) 町内福祉委員会の活動状況

各町内福祉委員会では、見守り活動や多世代交流を目的としたふれあい交流活動、介護予防や健康維持のための学習会や啓発など、様々な活動が行われています。

見守り活動では、避難行動要支援者支援制度などを活かして、見守り対象者の把握や選定などが推進されており、必要な支援について関係機関との連携ができつつあります。また、サロンに子どもを招待したり、多世代交流イベントを開催するなど、地域全体で交流できる場づくりが広がっています。



安祥地区社協「第2回地域会議」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 お互いに助け合いのできる体制づくり

- ① ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯に加え、ひとり親や外国人住民の世帯も増加しており、それぞれの困りごとへの対応が難しくなっています。
- ② 住民の困りごとに対し、分野を問わず関係機関と連携しながら、必要な情報を伝え合ったり、助け合える体制を整える必要があります。

主要課題2 活動の担い手への負担集中と後継者の育成

- ① 担い手の高齢化や外国人住民の増加などにより、組織の様々な役割や活動を支える人材が限られており、担い手の負担が大きくなっています。
- ② 活動継続のために、将来を見据えた後継者の育成が必要です。

主要課題3 参加しやすい地域行事の検討

- ① 地域行事に男性や若年世代の参加が少ないことや、参加者が固定化していることから、すべての住民に情報が行き届いていないことや、活動内容等が住民のニーズに合っていないことが考えられます。
- ② 住民の誰もが、地域行事の情報をキャッチできるように、周知方法の検討が必要です。
- ③ 誰でも地域行事に参加できるような、活動内容等の工夫が必要です。



上条町福祉委員会
「福祉委員会」



土器田福祉委員会
「外国人向けゴミの出し方勉強会」



西尾福祉委員会
「お茶処「おいでん」」

2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
上条町福祉委員会	①地域活動できる人材が限られ、負担が集中している。 ②各種行事への参加者が固定しており、地域全体の交流や各世代の困りごとなどの状況把握が難しい。 ③災害時の避難場所の確保が難しく、避難経路の検討ができていない。	○地域全体を意識し、世代を越えた交流活動の充実。 ○困りごとや助け合いに必要な情報の把握と支援をするために関係機関との連携を強化。 ○防災マップの整備や、防災意識向上のための研修会を実施。
土器田福祉委員会	①外国人住民が増え、住民全体の交流が不足している。 ②住民の約半数が外国人であるため、地域活動の理解が得られにくい。 ③サロン参加者が固定化している。	○顔の見える関係づくりのため、普段からの声かけ運動とゴミ出し時の安否確認の実施。 ☆外国人住民との協力体制づくり。 ○生活する仲間として、多世代、外国人住民が交流できる場の提供。
西尾福祉委員会	①福祉委員と民生委員との連携を強化したい。 ②困りごとを抱える住民に、必要な情報や支援が届いていない。 ③サロン参加者は高齢者ばかりで、若い世代の参加が少ない。	☆サロン活動の拡充。特に子育て世代に来てもらえるよう周知。 ○多世代の交流を通じて行う人材確保と育成。 ○住民が相談しやすい環境づくりのため、関係機関との連携を強化。
秋葉福祉委員会	①外国人住民との交流や地域活動への理解を得るのが難しい。 ②高齢化や外国人住民の増加に伴い、地域活動の担い手が不足している。 ③ひとり親世帯が増加しており、子どもやその親への支援の検討が必要。	○外国人住民、子ども、高齢者等誰もが参加し交流できる行事の提供。 ○住民が福祉について学ぶ機会を持つよう学習会等の実施。 ○子どもの安全確保のため、巡回パトロールを実施。
東尾福祉委員会	①住民に福祉委員会活動をより知ってもらいたい。 ②災害時の支援や見守り活動に関する情報の把握や共有が必要である。 ③住民全員の安全、防犯のため、さりげない見守りを行いたい。	○支援が必要な人の把握と見守り活動の強化。 ☆福祉的要素をもった町内の他団体との連携。 ☆子どもや障害のある人、高齢者を日常的に見守ることができるような見守り活動の啓発。

☆:新規 ○:継続(充実)



秋葉福祉委員会
「ハートフルケアセミナー」



東尾福祉委員会
「スポーツサロン」

河野町福祉委員会
「見守り活動緊急連絡ルート」



町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
河野町福祉委員会	①小さな集落であり、住民同士が顔見知りである。 ②町内会や町内行事の担い手が不足している。 ③見守り活動緊急連絡ルートを対象者に年1回訪問して配布している。	○活動者の負担にならないような多世代交流の実施。 ○困りごとの相談先を周知し、必要に応じて、関係機関と連携。 ○見守り活動緊急連絡ルートの訪問による配布の継続と定期的な見直しを実施。
古井町福祉委員会	①毎月の見守り定例会を開催し、地域支援者と情報交換を行っている。 ②高齢者数が増えることで、軽度の生活支援が必要な人の増加が見込まれる。 ③近所付き合いの希薄化もあり、町内の要支援者の把握が困難。	☆活動者の発掘、育成のため、福祉体験学習会を実施。 ○地域支援者や関係機関と連携した見守り活動の継続。 ☆サロン活動の継続と内容の充実。 ○全世帯の安否確認を基礎とした防災訓練の継続実施。
古井新町福祉委員会	①内容を工夫しながらサロンを毎月継続実施しているが、移動手段についての検討が必要。 ②青パトを活用した安否確認が十分でない世帯があった。 ③町内行事への若年層の参加や子ども会役員の担い手が不足している。	☆ひとり暮らし高齢者に限らず、障害のある人なども対象とした見守り活動の実施。 ☆町内会と子ども会が連携し若年層が参加したくなるように、行事を工夫。 ○顔を見て声かけを意識した青パトを週2回継続実施。 ○毎月のサロンを継続実施。
古井住宅福祉委員会	①町内活動の担い手の発掘が難しい。 ②外国人住民との共生のためには、交流の場が必要。 ③住民同士の交流を図るため、多世代交流を検討する必要がある。	☆町内独自の生活支援隊による生活支援活動の継続。 ○外国人住民との交流ができる町内行事の実施。 ○サロン活動の継続。 ○福祉委員会を継続開催し、要支援者等の情報共有を実施。

☆:新規 ○:継続(充実)



古井町福祉委員会
「公民館サロン喫茶スマイル☺」



古井新町福祉委員会
「ふれあいサロン」



古井住宅福祉委員会
「ふれあいバザー」

3 安祥地区社協の福祉活動推進計画

安祥地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	世代間の交流を促し、地域における助け合いを支援します。	(1)各町内の状況に応じた提案活動の実施	①情報提供や活動の提案 町内のニーズに合わせて、他地域の情報提供や活動方法などを提案します。 ②見守り活動推進のための提案 町内の活動状況に合わせ、日常生活の中で無理なく取り組める見守りや支援の方法を提案します。 ③学習会の開催支援 町内のテーマに合わせた学習会の開催について、講師情報の提供や開催方法を提案します。
		(2)活動資金の助成事業	各町内の福祉活動が充実するよう、市社協一般会費への協力を含め、各町内福祉委員会に対して活動資金の助成を行います。
		(3)多世代交流事業の推進	子ども、障害、高齢などの分野を超えた交流事業を支援します。
2	誰もが生きがいを持って安心して暮らせるまちづくりを推進します。	(1)住民での解決が難しい課題に対応できる体制づくり	市や地域包括支援センターなどの関係機関との連携を強化し、地域での解決が難しい課題に対応できる体制を整えます。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	①広報紙の発行 地区社協広報紙の発行など、広報活動を通じて、各町内が取り組む地域福祉活動への理解が得られるよう啓発を行います。 ②勉強会や交流会の開催 地域共生社会の実現に向けて、勉強会の開催や活動者の交流機会を設けるなど、地域福祉活動への啓発を行います。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の発掘	安祥福祉センターなどとの協働による事業の開催を通じて、地域福祉活動の担い手を含む、地域資源の発掘を行います。



安祥地区社協
「福祉講演会」



安祥地区社協
「中学生認知症サポーター養成講座」



安祥地区社協広報紙
「安祥ニッコニコ通信」



5-6 西部地区

1 地区の概況

(1) 地区の位置、地域特性

市の西部に位置し、5町内会と1連合町内会で構成されています。集落と農地の広がる農村地域と新幹線三河安城駅周辺のマンションが立ち並ぶ市街地があります。



(2) 地区の現状

地区内では、移動手段や買い物資源が限られており、幹線道路から離れた地域では自家用車の必要性が高くなっています。農村地域では、60歳以上の割合が高く、新幹線三河安城駅周辺の市街地よりも高齢化率が高くなっています。

従来から暮らしている住民が多い地域では、日頃の隣近所の付き合いや町内の行事を通じた交流があり、住民同士のつながりが保たれています。

一方、マンションやアパートが多い地域では、転入者との関わりを持ちにくく、町内全体での見守り活動や防災活動を進めることが難しい状況になっています。



田園と新幹線三河安城駅前のビル群

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(8)	町内福祉委員会(6)
下管池、箕輪、二本木、緑、三河安城本町、高棚、福釜、榎前	下管池福祉委員会、箕輪福祉委員会、二本木連合福祉委員会(西部地区)、高棚町福祉委員会、福釜町福祉委員会、榎前町福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	25,656人
(1)14歳以下人口と割合	3,688人(14.4%)
(2)15歳~64歳人口と割合	16,480人(64.2%)
(3)65歳以上人口と割合	5,488人(21.4%)
2 世帯数	10,205世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者 ※(1)と(2)は重複の場合あり	635人
(1)ひとり暮らし高齢者数	239人
(2)障害者数	275人
(3)その他	131人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	226人

[地域資源]

①保育園(4)、認定こども園(3)
②児童センター(2)、児童クラブ(12)
③小学校(4)、中学校(1)
④公民館(2)
⑤福祉センター(1)
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(31)
⑧障害福祉サービス事業所(17)
⑨医療機関(医科14、歯科8)
⑩サロン(30)、生活支援・見守り協力店(42)
⑪老人クラブ(12)、子ども会(7)

(令和5年10月1日現在)

(3) 町内福祉委員会の活動状況

各町内福祉委員会では、サロンや健康体操教室など地域住民の交流の場が設けられており、高齢者の介護予防や閉じこもり予防につながっています。

若い世代が地域と関わりが持てるように、多世代が参加できる行事も行われています。

見守り活動は、各町内の状況に合わせながら既存の組織や行事などを活用して行っています。避難行動要支援者支援制度への登録がない要支援者を独自に把握する取組をしている町もあります。

その他、安否確認を含めた防災訓練や、防災意識を高めるための研修会なども行われています。



高棚町福祉委員会
「福祉常任委員会:グループワーク」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 見守り活動の体制の整備

- ① 町内会に未加入の世帯や近所づきあいの希薄な世帯が増えつつあり、住民の把握が困難になってきています。近隣住民との関わりがなく、地域支援者のいないひとり暮らし高齢者や要支援者が増えています。
- ② 地域住民へ見守り活動の理解や周知を進め、町全体で見守る体制や生活上の困りごとへの支援体制について考えていく必要があります。

主要課題2 地域活動への参加促進

- ① サロンや地域活動への参加者が固定化・高齢化しており、活動を継承していくために新たな参加者や活動者を増やしていく必要があります。
- ② 高齢者の閉じこもり防止のために、活動内容の充実を図るとともに、参加の呼びかけや活動のPRをしていく必要があります。
- ③ 次世代の活動の担い手を確保するために、多世代が交流できる機会を増やしていく必要があります。

主要課題3 災害時の要支援者の支援体制の整備

- ① 近隣住民との関わりがなく、地域支援者のいない要支援者が増えています。
- ② 災害時における要支援者の具体的な支援方法について検討する必要があります。



福釜町福祉委員会
「小栗会館ふれあいサロン」



二本木連合福祉委員会
「健康体操教室」



榎前町福祉委員会
「見守り活動:地域支援者と世話焼きさんの交流会」



2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
下管池福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①外国人住民が多いが、言葉や生活習慣の違いがありコミュニケーションをとることが難しい。 ②見守り活動について、個人情報保護の問題もあり、役員で情報共有ができていない。 ③防災活動が行えていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆外国人住民向けの困りごと相談窓口の設置。 ○緊急時の連絡網の整備と情報共有。要支援者リストの作成。 ☆防災活動の復活。
箕輪福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①マンション住民との交流は、マンションには自治会があり、町内会と連携した取組は難しい。 ②サロン参加者が減少、固定化してきている。 ③子ども会、老人クラブ会員の減少。担い手がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○誰でも参加できる行事を開催し、チラシや回覧板で案内を行う。 ☆企業やボランティアに協力を依頼し、参加したくなる活動を実施する。 ○地域での活動を通じて担い手を発掘する。
二本木連合福祉委員会(西部地区)	<ul style="list-style-type: none"> ①地域支援者が登録されていない要支援者が多い。 ②行事やサロンに参加しない人と関わる機会がない。 ③継続的・効果的な防災訓練ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○見守りマップの見直しと地域支援者の登録推進。 ☆「困ったとき安心ファイル」を作成し、個別訪問などを行う。 ☆継続的に防災活動に関わる人材の育成と組織づくり。
高棚町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①若い世代にも地域と関わる機会を持たせていきたい。 ②高齢者と子どもの交流の機会が少なかった。 ③班別集合マップはあるが、定期的に更新されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆入園前の親子が交流できるよう子育て支援サロンを実施。 ○町内の人材や資源を活用した多世代交流事業を実施。 ○班別集合マップの定期的な更新と、町内会未加入者への周知。
福釜町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①災害時の対応のすり合わせや支援体制が十分ではない。 ②町内会に加入しない世帯や町内会の活動を知らない人がいる。 ③子ども達と地域との交流や子ども会と連携した事業ができると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○要支援者に配慮した自主防災会研修会や防災訓練、町・組単位での交流事業を実施。 ☆広報紙などを通じて町内会や組単位の活動のPRを実施。 ☆子ども会と連携し、町内の人材を活かした世代間交流の実施。
榎前町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①高齢者の閉じこもりを防止するため、「せせらぎサロン」や「体操教室＋お茶会」を充実させたい。 ②ゴミ出し等の生活支援を個人的に行っているケースが何件かある。 ③地域支援者がいない要支援者(ひとり暮らし)が増加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○回覧等による参加の呼びかけやお茶会でミニ講話開催を計画。 ☆草取りや剪定等ちょっとした生活支援を行うミニシルバーに取り組む。 ☆「個別避難計画」作成に向け、地域支援者がセットできるような働きかけを推進。

☆:新規 ○:継続(充実)

3 西部地区社協の福祉活動推進計画

西部地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	各町内の特色に合わせた町内福祉活動を支援します。	(1)各町内の状況に応じた提案活動の実施	①見守り活動実施方法の提案 見守り活動が町全体の活動として定着し、継続されるよう、実施方法を提案します。 ②生活支援やサロン活動の支援 各町内福祉委員会の活動状況を把握し、町内に合った活動を提案します。
		(2)活動資金の助成	各町内の福祉活動が充実するよう、市社協一般会費への協力を含め、各町内福祉委員会に対して活動資金の助成を行います。
		(3)関わりの少ない住民や多世代との関係づくり	関係機関と連携し、地域と関わりの少ない住民に対応できる体制づくりや多世代交流事業の情報提供などを行います。
2	住民がお互いに安心して暮らせる地域づくりを推進します。	(1)住民だけでは解決が難しい課題を把握したときに対応できる体制づくり	市や地域包括支援センターなどの関係機関との連携を強化し、住民だけでは解決が難しい課題を把握したときに対応できる体制をつくります。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	地区社協広報紙の発行など、広報活動を通じて、各町内が取り組む地域福祉活動への理解が得られるよう啓発を行います。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の発掘	西部福祉センターやボランティアセンターなどと連携して、地域福祉活動の担い手となる人材や地域資源の発掘を行います。



下管池福祉委員会
「ふれあいサロン」



箕輪福祉委員会
「シニア楽椅子体操」



西部地区社協広報紙
「西部地区社協だより」



5-7 明祥地区

1 地区の概況

(1) 地区の位置、地域特性

市の南西部に位置し、5町内会で構成されています。米やイチジク、ぶどうなどの栽培が盛んで、田畑が広がります。

その傍らに工場地帯があり、農業と工業を兼ね備えた地域です。

古くは、明治村というひとつの村だったことから、地区内のつながりがあり、住民同士の深い関わりがあります。



(2) 地区の現状

地区内の大部分は市街化調整区域であり、市内で最も高齢化率の高い地域となっています。

近所との関係が密であり、親族が近くに住んでいることも多く、自然な形での見守りができていましたが、近年、日中をひとりで過ごす高齢者が増えています。また、工場跡地の宅地化による人口流入がある地区では、住民同士のつながりに変化がみられます。



工場と田園風景

生活環境面では、河川や用水路も多く、高齢者や障害のある人にとって危険になりうる箇所もみられます。

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(5)	町内福祉委員会(5)
石井、和泉、東端、根崎、城ヶ入	石井町福祉委員会、和泉町福祉委員会、東端町福祉委員会、根崎町福祉委員会、城ヶ入町福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	13,648 人
(1)14歳以下人口と割合	2,094 人(15.3%)
(2)15歳~64歳人口と割合	8,061 人(59.1%)
(3)65歳以上人口と割合	3,493 人(25.6%)
2 世帯数	5,098 世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者数 ※(1)と(2)は重複の場合あり	356 人
(1)ひとり暮らし高齢者数	143 人
(2)障害者数	134 人
(3)その他	82 人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	142 人

[地域資源]

①保育園(2)、認定こども園(2)
②児童センター(1)、児童クラブ(6)
③小学校(2)、中学校(1)
④公民館(1)
⑤福祉センター(1)※公民館との複合施設
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(14)
⑧障害福祉サービス事業所(3)
⑨医療機関(内科3、歯科4)
⑩サロン(16)、生活支援・見守り協力店(75)
⑪老人クラブ(5)、子ども会(6)

(令和5年10月1日現在)

(3) 町内福祉委員会の活動状況

世代間交流活動や学習活動、高齢者・子どもの見守り活動が行われています。特に、夏休み中に町内公民館を開放して行われる子どもの見守り活動は、すべての町内福祉委員会でされており、この地区の特徴的な活動となっています。

高齢者の見守り方法については、敬老訪問を困りごとを確認する機会の一つとして捉え、数年単位で聞き取り内容を記すことのできる台帳を作成し、高齢者の変化を見逃さないようにするなど、各町で工夫しながら見守りに取り組んでいます。



城ヶ入町福祉委員会
「ばわふるきっず」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 見守り対象者の多様化への対応

- ① 見守り対象者はひとり暮らし高齢者に限らず、高齢者世帯や日中独居、65歳未満でひとり暮らしの人、地域とつながりのない人など多岐にわたり、実態把握が困難なケースがあります。
- ② 見守りの対象者の多様化による支援の増加に対応し、継続した見守り活動を行うためには、福祉委員会や民生委員、老人クラブだけではなく、地域包括支援センターなどの関係機関との連携強化が必要です。

主要課題2 活動の協力者の発掘

- ① 夏休み中の子どもの見守りやふれあいの活動において、子どもが楽しめる工作やゲーム等を指導してくれる人材が不足しています。
- ② 活動の担い手は町内福祉委員や町内会役員が兼任していますが、負担が多く、新たな担い手の確保と育成が必要です。
- ③ 活動の協力者を発掘するために、町内外の他団体に協力を得るなどの検討が必要です。

主要課題3 活動の内容の固定化

- ① 活動が継続しているものほど、内容が固定化しています。
- ② 若い世代や子育て世代がサロンに参加できる内容の工夫やPRが必要です。



明祥地区社協広報紙
「えがお」



明祥地区社協
「地域福祉活動勉強会」



和泉町福祉委員会
「シニア健康フェスタ」



2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
石井町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①子育て世代などの若い世代がサロンに参加できる工夫が必要である。 ②見守りの対象者の範囲をどこまでにするのか検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆子育て世代などの人が参加できる内容の工夫やPRを行う。 ○避難行動要支援者台帳の点検時に支援者と要支援者の確認を行う。
和泉町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①町内サロンの認知度を上げるためのPRが必要である。 ②活動全般において次世代の人材発掘が必要である。 ③見守り対象者や子どもの参加が少なくなっている行事があるため内容の見直しが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆各サロンが継続的に活動できるよう支援を行う。 ☆ふれあい活動において町内にある各団体の協力を得る。
東端町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①ボランティア人材の高齢化に伴い人材の発掘が必要である。 ②65歳未満のひとり暮らしで日常生活に心配な人が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉委員会事業に関心を持っていたりするような工夫を行い、幅広い協力者の発掘を行う。 ○地域住民を巻き込んだ見守り活動と対象者の実態把握のための情報共有の場の継続。
根崎町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①夏休み期間中の子どもの見守り活動の内容の工夫と講師の発掘が課題である。 ②サロン参加者増につながるメニューが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆夏休み期間中の子どもの見守り活動で、新たに外部講師の協力を得て子どもの遊びを展開する。 ☆いきいきサロンで新たに企業などの協力を得る。
城ヶ入町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①現在の見守り対象者以外に対しても見守り活動の仕組みづくりが必要である。 ②見守り活動に協力してくれる人材の発掘が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆見守り前の大人も見守りをする「見守りネットワーク」の構築。 ○行事等への協力者の発掘を継続して行う。

☆:新規 ○:継続(充実)



石井町福祉委員会
「リラックスいいい」



東端町福祉委員会
「敬老祝い訪問」



根崎町福祉委員会
「根崎っ子よっといでん」

3 明祥地区社協の福祉活動推進計画

明祥地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	地域福祉活動が継続するための支援を行います。	(1)各町内の状況に応じた活動の支援	①協力者の提案や情報提供 活動の充実を図るため、外部講師や民間企業などと連携し、協力者の提案や情報提供を行います。 ②活動の工夫や提案、用具の貸出 活動の工夫の提案や情報提供を行います。また、用具等の貸出などを行います。 ③見守り活動の継続と充実 現在行われている各町内の見守り活動を継続していくため、活動の支援や他地区での情報提供を行い、さらなる充実を図ります。
		(2)活動資金の助成	各町内の福祉活動が充実するよう、市社協一般会費への協力を含め、各町内福祉委員会に対して活動資金の助成や各種助成金の提案を行います。
2	誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進するための環境づくりを行います。	(1)関係機関との連携強化による見守り支援	市や地域包括支援センター等の関係機関との連携を強化するとともに、地域住民の見守りを支援し、住民と各機関が協力できるような体制を整えます。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	①広報(地区社協広報紙の発行等) 地区社協広報紙の発行や地域の行事での広報活動を通じて、住民が町内の行う地域福祉活動への理解や福祉に関する情報を得られるよう啓発を行います。 ②勉強会や講演会の開催 地域福祉活動の充実に向け、勉強会や講演会を開催し、住民が暮らす中での知識や充実感を得られるよう啓発します。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の育成と活躍の場の創出	明祥福祉センターや明祥公民館、明祥中学校などと連携をし、地域活動の担い手となる人材の育成と、活躍の場の創出を行います。



5-8 桜井地区

1 地区の概況

(1) 地区の位置、地域特性

市南東部に位置し、東には矢作川が流れ、岡崎市、西尾市と隣接する地域です。昔からの農村地域であり、農業を継承し住み続けている住民も多くいます。地区内は12町内会で構成され、昭和42年に安城市と合併するまでは独立した町であったこともあり、桜井地区全体で連携の取れる体制を持ち、協力し合っています。また、町内会がさらにいくつかの集落に分かれ、昔ながらの付き合いなどが受け継がれているところもあります。



(2) 地区の現状

親戚同士や近隣住民同士の日常的なつながりが自然と保たれている地域が数多く残っていますが、特に名鉄桜井駅周辺の区画整理に伴い、転入者が増加し、地域の様子も変化してきています。

年少人口が増え、市内小学校のなかでもっとも生徒数の多い桜井小学校がある一方、高齢化率も高くなっています。



桜井地区夏まつり

[町内会・町内福祉委員会の状況]

町内会(12)	町内福祉委員会(12)
藤野、堀内、桜井北、城山、城向、桜井西町、東町、姫小川、館出、鹿乗、小川、三ツ川	藤野福祉委員会、堀内町福祉委員会、桜井北福祉委員会、城山福祉委員会、城向福祉委員会、桜井西町福祉委員会、東町福祉委員会、姫小川福祉委員会、館出福祉委員会、鹿乗福祉委員会、小川町福祉委員会、三ツ川福祉委員会

[人口や世帯数等]

1 人口	22,721人
(1)14歳以下人口と割合	3,612人(15.9%)
(2)15歳～64歳人口と割合	13,771人(60.6%)
(3)65歳以上人口と割合	5,338人(23.5%)
2 世帯数	8,872世帯
3 避難行動要支援者支援制度登録者 ※(1)と(2)は重複の場合あり	608人
(1)ひとり暮らし高齢者数	228人
(2)障害者数	239人
(3)その他	153人
4 ひとり暮らし高齢者認定者数	223人

[地域資源]

①保育園(4)、認定こども園(2)、幼稚園(1)
②児童センター(1)、児童クラブ(7)
③小学校(2)、中学校(1)、高等学校(1)、特別支援学校(1)
④公民館(1)
⑤福祉センター(1)
⑥地域包括支援センター(1)
⑦介護保険サービス事業所(16)
⑧障害福祉サービス事業所(16)
⑨医療機関(医科13、歯科8)
⑩サロン(41)、生活支援・見守り協力店(102)
⑪老人クラブ(18)、子ども会(21)

(令和5年10月1日現在)

(3) 町内福祉委員会の活動状況

地区内には、市内で最も早く発足した福祉委員会があり、見守り活動やサロンなどのふれあい交流活動が主に行われています。

見守り活動は、日頃の声かけや戸別訪問、サロン活動を通じた安否確認、福祉委員会や懇談会等での情報共有など、各町内の状況に合わせて取り組まれています。

また、ふれあい交流活動は、サロンの開催やDVDを活用した健康体操等を実施し、住民同士のつながりやつどいの場として定着しています。



桜井地区社協「第1回地域会議」

(4) 地区の主要課題

主要課題1 住民同士が交流できる場づくり

- ① 各町内では、サロン活動や住民のふれあい交流の場を定期的には開催していますが、転入者の増加などによって、新旧の住民や多世代での交流が少なくなっています。
- ② サロン活動などの行事に参加する人は固定化する傾向にあり、サロン活動を通じた安否確認や実態把握が難しくなっています。

主要課題2 支援を必要とする人の増加への対応

- ① 高齢化の進行によって、ひとり暮らし高齢者だけでなく、日中独居、高齢者世帯など支援の必要な人や世帯が増加しています。
- ② 見守り活動の対象者の多くが、水害や地震などの災害においても支援を必要とすることが多いため、災害を想定した安否確認や避難訓練の実施など災害対策を考える必要があります。
- ③ 避難行動要支援者支援制度において、地域支援者を見つけることが難しい地域があります。

主要課題3 活動の担い手の発掘

- ① 高齢化や支援の必要な人の増加などによって、福祉委員会活動の重要性が高まる一方、福祉委員の高齢化や新たな担い手を見つけることが難しいため、特定の人に負担が集中したり、継続した活動を行うことが困難な状況が今後想定されます。
- ② 継続した活動を行うために、見守り活動やサロン活動などの福祉委員会活動と、町内の他団体や既存の活動と連携するなどを通じて、負担軽減の方法を検討する必要があります。



2 町内福祉活動計画の方針

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
藤野福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①見守り対象者拡大の検討が必要である。 ②特に水害が心配される地域のため、具体的な訓練が必要である。 ③転入者が多くなり、新旧住民の交流が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日中独居、高齢者世帯、その他支援の必要な世帯など見守り対象者拡大の検討。 ☆支援の必要な人が参加でき、実際の災害を想定した避難訓練、安否確認訓練の実施。 ☆新旧、多世代の住民が交流できる企画検討、実施。
堀内町福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①サロンの内容がマンネリ化しないよう、魅力を感じられる工夫が必要である。 ②見守り活動の訪問回数を検討する必要がある。 ③福祉活動の人材を現役委員から少しずつ入れ替えていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆町全体で気かけ合える見守り活動の実施に向けた啓発活動の実施。 ○木曜サロン、三世代交流事業の継続実施。 ○支援の必要な人を含めた防災訓練の実施。
桜井北福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①活動の担い手が不足している。 ②3集落合同の交流会ができていない。 ③実際の災害を想定した訓練の実施が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ふれあい交流など各種交流事業の拡充。 ○見守り活動の継続実施。 ☆自主防災会、福祉委員会、地域支援者が連携し、要支援者の避難支援を想定した防災訓練の実施。
城山福祉委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①若い世代との交流が少ない。 ②役員の担い手がなく、活動が停滞している。 ③高齢化率が非常に高いため、その対策を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆町民が主役になれるような企画実施。 ○各種団体と連携した見守り活動の実施。 ☆困りごとアンケートの実施や、対応の仕組みづくり。

☆:新規 ○:継続(充実)



藤野福祉委員会
「地域見守り活動支援者懇談会」



桜井北福祉委員会
「ハートフルケアセミナー」



城山福祉委員会
「健康体操教室」

町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
城向福祉委員会	①コロナ禍で「ふれあい交流の場づくり」が停滞を余儀なくされた。 ②見守り対象者や避難行動要支援者の支援者拡充やつながりを強化する必要がある。 ③高齢者・子どもの居場所づくりを復活させたい。 ④福祉活動推進の担い手を見つける必要がある。	○「ふれあい交流の場づくり」事業の復活・充実。 ○見守り対象者・避難行動要支援者の支援者の充実やつながりづくり。 ○高齢者・子どもの居場所づくりの復活。 ○福祉活動の理解醸成や活動の担い手発掘強化。
桜井西町福祉委員会	①サロンの参加者に、男性や新たに参加する人が少ない。 ②福祉委員が高齢化している一方、見守り対象者が増えている。 ③福祉委員の増員及び、後継者の発掘が急務である。	○サロン活動、高齢者見守り活動、子ども会と老人クラブのふれあい交流会等、諸活動の確実な推進。 ○フレイル対策の取組と実践。介護・認知症予防を含めた体操及び、脳トレ等の活動計画と推進。
東町福祉委員会	①見守り対象者が増えている。 ②それぞれにしっかり活動している一方、うまく連携できていないため、どのように各団体との連携をとるかが課題である。 ③サロン参加者が固定している。	○ふれあいの場の充実。 ○各団体とボランティアグループ「つながり会」の連携による見守り活動の継続実施。 ○要支援者への支援を含めた実践的な避難訓練の実施。
姫小川福祉委員会	①今後、見守り対象者の増加が見込まれるため、見守り活動者の確保が必要である。 ②各団体と要支援者情報の共有ができていない。 ③要支援者の情報を防災活動に活かせていない。	☆ふれあい交流、見守りを兼ねた参加しやすいサロン活動を新たに行い、子どもから高齢者までの多世代が楽しく参加できる場づくり。 ○各団体と連携した見守り支援体制の構築。 ☆さらなる支援に向けたエリア別担当者の配置による見守り活動の充実。

☆:新規 ○:継続(充実)



桜井西町福祉委員会
「見守り報告会」



東町福祉委員会
「地域支援者交流会」



姫小川福祉委員会
「10日サロン」



町内福祉委員会名	地域会議で出た課題・意見	主な活動方針
<p>舘出 福祉委員会</p>	<p>①外国人住民の入れ替わりが早く、交流がしづらい。 ②外国人住民への防災意識の啓発ができていない。 ③役員の担い手が見つけにくい。</p>	<p>○声かけ運動の徹底。 ○ふれあいサロンなどを継続して行うことによる住民同士の顔の見える関係づくり。 ☆DVD(健康体操)を活用した介護予防の充実。 ○防災訓練などを通じた防災意識の啓発。</p>
<p>鹿乗 福祉委員会</p>	<p>①高齢化率が非常に高い。 ②運転免許返納や身体の衰えにより、買物の不自由やちょっとした困りごとのある住民が増えている。 ③閉じこもりがちな高齢者や、住民同士の交流機会が少ないため、対応が必要である。 ④空き家が増加している。</p>	<p>○福祉委員、組長及び民生委員を中心とした見守り活動の継続実施。 ○移動スーパー等との連携。 ○鹿乗お助け隊の継続実施。 ○介護予防や世代間交流を図るため、サロンや公民館開放の実施。</p>
<p>小川町 福祉委員会</p>	<p>①町内にある11の集落ごとに地域特性が違い、それぞれに応じた活動計画づくりが必要である。 ②見守り活動が特定の人で行われているため、広く周知する必要がある。 ③単年度で交代する福祉委員が多く、また総代と委員長の兼務などで多忙なため活動を理解して継続することが難しい。</p>	<p>○町全体としてのまちカフェの実施や、集落に合わせたサロン、ふれあい交流の実施。 ○見守り対象者の見直し、マップづくり、支援者懇談会など、見守り体制を維持継続するための取組を11集落に周知し計画に明記。 ○活動が継続できるよう福祉委員会を定期開催し、活動内容に引継ぎを含めた年間計画を作成。</p>
<p>三ツ川 福祉委員会</p>	<p>①4町ごとに地域行事や特性があるため、町ごとに合った福祉活動計画を進める必要がある。 ②サロン活動やクラブ活動のメンバーが固定している。 ③転入者や世代間での交流する機会が少ない。</p>	<p>○4町ごとに福祉活動計画を立て、見守りや助け合い活動を推進。 ○役員交代をしても継続できる町内福祉委員会活動を展開。 ○世代間交流事業の実施。 ☆各活動への参加を促進するための周知強化。</p>

☆:新規 ○:継続(充実)



鹿乗福祉委員会
「移動スーパーによる買物支援」



小川町福祉委員会
「福祉委員会(志茂)」



地域ふれあいサークル「かんらんしゃ」
「かんらんしゃサロン」

3 桜井地区社協の福祉活動推進計画

桜井地区社協では次の計画に基づき、福祉活動を推進します。

基本目標		具体的な取組	
		取組項目	取組内容
1	誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進する活動に対する支援を行います。	(1)各町内の状況に応じた提案活動の実施	①情報提供や活動の提案 各町内福祉委員会の活動がより充実するよう、他地域の情報を提供するとともに、活動の開催方法、介護や孤立などの予防を視野に入れた取組などを、地域のニーズや進捗状況に合わせて提案します。 ②見守り活動推進のための提案 町内の状況に合わせた見守り方法や支援方法を提案します。 ③見守り活動と連動した防災減災活動の提案 見守り活動の対象者の状況把握やマップづくりなどの日頃の見守り活動を活かした防災減災活動を提案します。
		(2)活動資金の助成	各町内の福祉活動が充実するよう、市社協一般会費への協力を含め、各町内福祉委員会やボランティア団体に対して活動資金の助成や活用できる資金の情報を提案します。
		(3)町内福祉委員会と関係機関との連携支援	町内福祉委員会が専門機関や民間企業等と連携・協働できる活動の提案や支援をします。
2	誰もが安心して暮らせるまちづくりを推進するための環境づくりを行います。	(1)地域での住民、専門機関が総合的に見える見守り支援の体制づくり	①地域全体で見守りができる体制づくり フォーマル、インフォーマルを問わず、地域にある福祉や医療、子育てなど様々な関係者や住民同士の連携を推進します。 ②専門機関の連携強化 市や地域包括支援センター等の専門機関との連携を強化し、住民だけでの解決が難しい課題を把握したときに連携して対応できる体制を整えます。
		(2)地域福祉活動に関する啓発	①広報 地区社協だよりの発行や啓発イベントを通じた広報活動によって、各町内福祉委員会が行う地域福祉活動への理解や福祉情報が得られるよう啓発を行います。 ②勉強会や講演会の開催 地域福祉活動の充実のための勉強会や講演会を開催することを通じて、地域活動とともに暮らす一員として参加協力できるよう、住民の啓発を推進します。
		(3)地域福祉活動の担い手となる人材の発掘	様々な関係機関との連携や地区社協、市社協事業を通じた地域福祉活動の担い手となる人材の発掘を行います。